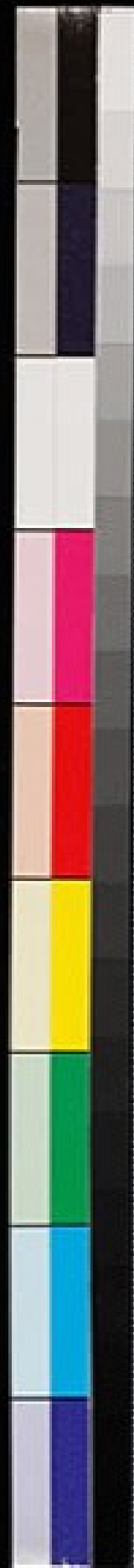


8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

1	何れも、 ソノ 心 に し ら せ り 。	118-1	何れも、 ソノ 心 に し ら せ り 。
2	...	118-2	...
3	...	118-3	...
4	...	118-4	...
5	...	118-5	...
6	...	118-6	...
7	...	118-7	...
8	...	118-8	...
9	...	118-9	...
10	...	118-10	...
11	...	118-11	...
12	...	118-12	...
13	...	118-13	...
14	...	118-14	...
15	...	118-15	...
16	...	118-16	...
17	...	118-17	...
18	...	118-18	...
19	...	118-19	...
20	...	118-20	...
21	...	118-21	...
22	...	118-22	...
23	...	118-23	...
24	...	118-24	...
25	...	118-25	...
26	...	118-26	...
27	...	118-27	...
28	...	118-28	...
29	...	118-29	...
30	...	118-30	...

...

...



聖約全書 加松次書 第二章 自廿三至三二章七節 五百卅五

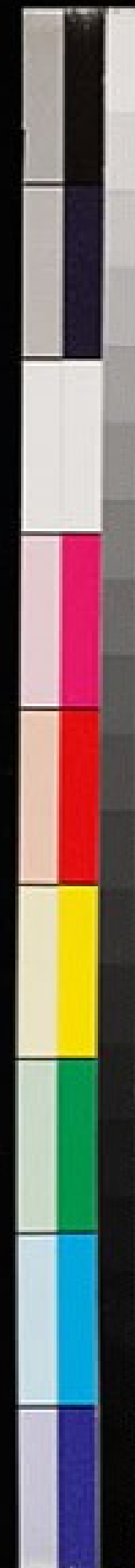
イ BENIOX + KUN + L + L	三	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	二	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	一	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	二	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	三	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	四	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	五	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	六	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	七	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	八	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	九	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>
イ BENIOX + KUN + L + L	十	<p>「<u>我々の罪をゆるす</u>」の今ハ其前にゆるさんとしたる自分の過を宣言よと聞 事に對て時を認むることなり</p>

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

4	加拉太人	ハテトロに
5	加拉太人	ハテトロに
6	加拉太人	ハテトロに
7	加拉太人	ハテトロに
8	加拉太人	ハテトロに
9	加拉太人	ハテトロに
10	加拉太人	ハテトロに
11	加拉太人	ハテトロに
12	加拉太人	ハテトロに
13	加拉太人	ハテトロに
14	加拉太人	ハテトロに
15	加拉太人	ハテトロに
16	加拉太人	ハテトロに
17	加拉太人	ハテトロに
18	加拉太人	ハテトロに
19	加拉太人	ハテトロに
20	加拉太人	ハテトロに
21	加拉太人	ハテトロに
22	加拉太人	ハテトロに
23	加拉太人	ハテトロに
24	加拉太人	ハテトロに
25	加拉太人	ハテトロに
26	加拉太人	ハテトロに
27	加拉太人	ハテトロに
28	加拉太人	ハテトロに
29	加拉太人	ハテトロに
30	加拉太人	ハテトロに
31	加拉太人	ハテトロに
32	加拉太人	ハテトロに
33	加拉太人	ハテトロに
34	加拉太人	ハテトロに
35	加拉太人	ハテトロに
36	加拉太人	ハテトロに
37	加拉太人	ハテトロに
38	加拉太人	ハテトロに
39	加拉太人	ハテトロに
40	加拉太人	ハテトロに
41	加拉太人	ハテトロに
42	加拉太人	ハテトロに
43	加拉太人	ハテトロに
44	加拉太人	ハテトロに
45	加拉太人	ハテトロに
46	加拉太人	ハテトロに
47	加拉太人	ハテトロに
48	加拉太人	ハテトロに
49	加拉太人	ハテトロに
50	加拉太人	ハテトロに
51	加拉太人	ハテトロに
52	加拉太人	ハテトロに
53	加拉太人	ハテトロに
54	加拉太人	ハテトロに
55	加拉太人	ハテトロに
56	加拉太人	ハテトロに
57	加拉太人	ハテトロに
58	加拉太人	ハテトロに
59	加拉太人	ハテトロに
60	加拉太人	ハテトロに
61	加拉太人	ハテトロに
62	加拉太人	ハテトロに
63	加拉太人	ハテトロに
64	加拉太人	ハテトロに
65	加拉太人	ハテトロに
66	加拉太人	ハテトロに
67	加拉太人	ハテトロに
68	加拉太人	ハテトロに
69	加拉太人	ハテトロに
70	加拉太人	ハテトロに
71	加拉太人	ハテトロに
72	加拉太人	ハテトロに
73	加拉太人	ハテトロに
74	加拉太人	ハテトロに
75	加拉太人	ハテトロに
76	加拉太人	ハテトロに
77	加拉太人	ハテトロに
78	加拉太人	ハテトロに
79	加拉太人	ハテトロに
80	加拉太人	ハテトロに
81	加拉太人	ハテトロに
82	加拉太人	ハテトロに
83	加拉太人	ハテトロに
84	加拉太人	ハテトロに
85	加拉太人	ハテトロに
86	加拉太人	ハテトロに
87	加拉太人	ハテトロに
88	加拉太人	ハテトロに
89	加拉太人	ハテトロに
90	加拉太人	ハテトロに
91	加拉太人	ハテトロに
92	加拉太人	ハテトロに
93	加拉太人	ハテトロに
94	加拉太人	ハテトロに
95	加拉太人	ハテトロに
96	加拉太人	ハテトロに
97	加拉太人	ハテトロに
98	加拉太人	ハテトロに
99	加拉太人	ハテトロに
100	加拉太人	ハテトロに

ハテトロに對面を受けたる者に聚會を擧ぐることを許されし如く我は彼を
 受ける者に聚會を擧ぐることを許されしを見、ハテトロに能力を予て
 受たる人の使徒と爲し者また我にも能力を予て異邦人の使徒と爲り、よ
 た我に與へ所の罪なきにより生を擧ぐる事すべし、
 予て我とバルナバに交を結べり是れわがらハ異邦人に預り彼等ハ
 たる者に預らん爲なり、
 後我も亦この事ハ衆より聽んで爲んとする所なり、
 予より來る者の衆に預らざる前にハテトロ異邦人と共に食したれども我
 等が預るに及て聚會を受けたる者を預れ居きて異邦人と別たれば、
 餘のユメキ人し彼と共に居り行はなし、
 たり、
 てハテトロに白けるハ

加拉太人...
 ハテトロに...
 受ける者に...
 予て我と...
 たる者に...
 後我も亦...
 予より來...
 等が預る...
 餘のユメ...
 たり、
 てハテロ...



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

聖書全書 新約全書 第三卷 自十五卷第三十一節 五百七十七

イ	く行つてあることをいひ、何ぢ異邦人を強てユダヤ人の例に習はせんと爲すか。夫
イ	われちらの生、衆の一人千人にして異邦より出たる兩人に與す。然レ人の
イ	爲さざらん、 <u>ユダヤの律に由りて、</u> 何レユダヤ人を信するに由らば
イ	必レ此の世に我僕も律法の行に由りて、ユダヤ人を信するに由りて、我とせられ
イ	んが、其にイエスキリストを信す、 <u>律法の行に由りて、</u> 我とせらるゝ者なけれ
イ	ば也。若われらキリストに在て、我とせられん事を欲ひば、何人ならん、キ
イ	リストの律の例なるが、決て然らず。我が先に、 <u>思ふ此ものを、今しも、</u> 故び地
イ	な、 <u>自ら、</u> 其知人なるを願すなり。われ律法に由りて、 <u>律法に由りて、</u> 死に、
イ	向つて、 <u>なんじ、</u> なり。然レキリストと、 <u>我と、</u> 我に對し、 <u>われ、</u> 我に對し、
イ	内、 <u>キリストに在て、</u> 生るなり、 <u>今われ、</u> 内、 <u>生るに在て、</u> 我を愛して、 <u>我が</u>
イ	母に、 <u>已に、</u> 我を愛すなり、 <u>今われ、</u> 母の子を信するに由りて、 <u>生るなり、</u> 我の母の
イ	律然らず、 <u>若しも、</u> 我とせらるゝこと、 <u>律法に由りて、</u> キリストの死は、 <u>律然なる</u>
イ	事なるが、 <u>故す、</u> マに、 <u>イエスキリストの十字架に釘られし、</u> 事を、 <u>明かに、</u> 其

律然なるが、故す、マに、イエスキリストの十字架に釘られし、事を、明かに、其
 事なるが、故す、マに、イエスキリストの十字架に釘られし、事を、明かに、其
 事なるが、故す、マに、イエスキリストの十字架に釘られし、事を、明かに、其
 事なるが、故す、マに、イエスキリストの十字架に釘られし、事を、明かに、其

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



契約金書 加松太吉 第三巻 百三十二節

五百四十八

三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二

目前に寄されたるアラツタ人、神が信習を遣わせし事、事たと此事を聞
 習より聞んとす信習が習を授じ、神法を行ふに由り、神きよて信ぜしに由
 り、信習がく思なる事、なんぢら等に似て、餘り今向に同て合うせらる事
 〓 なんぢら信あるは、くの言を信然に交む、其に信然にハ有まじ、ちれ信
 習に信を子ハ、つ音、神を行はしめ、給ふ者のも、此なすハ、信習が法を行
 ふに由てなる事、またハ、同て信ぜしに由てなる事、即ちアラツタハ、神を信
 じ、其信習を授と爲れたるが如し、是故に信習による者ハ、是アラツタハ、の
 子なりと、信習知べし、ハ、つ音、神イマに、信習に由て、神の、異邦人を、神と爲給
 ふことを、授じ、め、神よ、神音を、アラツタハ、に、修て、神、神の、民の、信に、由て、神
 を、授んと、云り、是故に、信習に、由しもの、信習ありし、アラツタハ、と、信に、神を
 授、凡そ、神法の、行に、由しもの、信習るべし、神法の、信に、授たる、凡の、事な、信に
 行へざる者ハ、神ると、神られたれバ、也、ハ、つ音、神ハ、信習に、由て、是くし、と、有
 神法に、由て、神の、神に、授とせらる事なきことハ、明かなり、ちれ、神法ハ、信

アラツタハ、
 神を、授じ、め、神よ、神音を、アラツタハ、に、修て、神、神の、民の、信に、由て、神
 を、授んと、云り、是故に、信習に、由しもの、信習ありし、アラツタハ、と、信に、神を
 授、凡そ、神法の、行に、由しもの、信習るべし、神法の、信に、授たる、凡の、事な、信に
 行へざる者ハ、神ると、神られたれバ、也、ハ、つ音、神ハ、信習に、由て、是くし、と、有
 神法に、由て、神の、神に、授とせらる事なきことハ、明かなり、ちれ、神法ハ、信



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

4	RECOGNIZI ONEM	三三	の約束に反する者をして若し人となしうる律法を賜りしならんば我とせら るべきに違はずに法に由らし 然らば爾等が反て與人を其の下に拘束たり此 のイエスキリストを信するに由る約束のものを彼の信者に賜らんが爲な り
5	RECOGNIZI ONEM	三三	り 爾等が法に由る律法を以て我を以て信するに由る律法に由るて我とせらるべきに 違はずに法に由らし 然らば爾等が反て與人を其の下に拘束たり此 のイエスキリストを信するに由る約束のものを彼の信者に賜らんが爲な り
6	RECOGNIZI ONEM	三三	るに由て爾の子となれり 爾は凡ちイスラエリヤ人を愛てキリストに入る 爾 の心は 爾の心は 爾の心は 爾の心は
7	RECOGNIZI ONEM	三三	ら 爾キリストイエスに在て一なれば也 然らば凡ちキリストに信する者 ならんば爾等も 爾等も 爾等も 爾等も
8	RECOGNIZI ONEM	三三	なるに由て爾の子となれり 爾は凡ちイスラエリヤ人を愛てキリストに入る 爾 の心は 爾の心は 爾の心は 爾の心は

... 聖約全書 旧約全書 申命記 二章 五百四十四

... 聖約全書 旧約全書 申命記 二章 五百四十四

... 聖約全書 旧約全書 申命記 二章 五百四十四

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



* 2109

* 2110

* 2111

* 2112

* 2113

* 2114

* 2115

* 2116

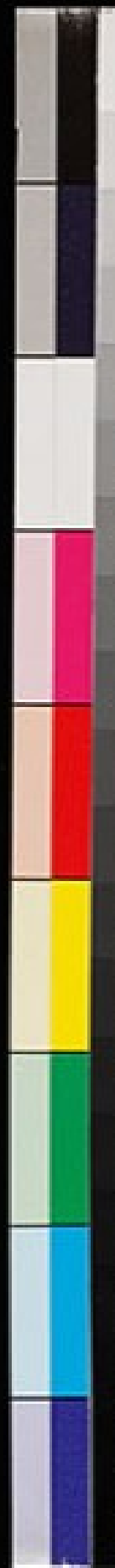
* 2117

* 2118

* 2119

* 2120

心算を以て早めず亦腹を反して天の星の如く見ゆとて我を拘
 へたり 爾時その時の星の如くありし事われ爾時に見ゆ若し得べく
 爾時とありの事あり我に事ありとより言たり 然るに我なんぢらに就
 死を語りしに就て我なんぢらの仇となりし事 彼等が爾時に見ゆなるは
 名意に非ず爾時を己に熱心ならしめんとて爾時を隠しめんとする也 然
 事功わが爾時と然なる時のみならず昔事の爲に常に熱心なるは宜きなり
 我が小子と我なんぢらとの心にありては我が我の我に就て爾時を隠しめ
 の功めをなす 我いと爾時を隠に在て口氣を咬めんことを欲ふ爾れ爾
 言に就て述べなり 〇 なんぢら律法の下に在んことを欲ふ者と我に爾れ
 爾時を隠さる事 爾してアブラハムに二人の子あり一人は爾より一
 人の自主の節よりありたりと有 子の節より生れし者へ内に爾の自主の節
 より生れし者との節に因て生れたる也 この言へ爾時にして爾ら我に
 一の契約に比して一〇の契約より出でて子を我に生これ即ちハゲル



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

14002+	二	なり。此ハゲルハアツビヤのシナイ山今のエルサレムに當るなり。蓋かれ
14003+	三	其諸子と係に取滅たれば也。然る上に在とこのエルサレムハ自主にし
14004+	四	て然れらの母なり。うへ歸して故郷生ざる者も當へ蓋の効勞せざる者
14005+	五	も蓋を擲て時に取居る者の子へ夫ある者の子よりし多故なりと有はな
14006+	六	り。兄弟と我曹ハイタラの如く約束の子なり。然るも當時の内に留ひて
14007+	七	全じもの罪に留ひて生れも者も當りし今し然り。然る蓋者ハ何と當
14008+	八	るの時よび其子を擧うハ律の子ハ自主の給の子と共に嗣子となる可ら
14009+	九	されば也と語り。兄弟と此の如なれば我曹ハ律の子に當らず此自主の給の
14010+	十	子なり。
14011+	十一	蓋は蓋がヌスキムト我曹を擲て官を授けたり。然るに蓋を擲て我
14012+	十二	曹の罪に對する罰は。我曹も當りし。然るに蓋を授けたり。蓋を授けたり。
14013+	十三	リスト更に國曹に當らし。我曹も當りし。然るに蓋を授けたり。蓋を授けたり。
14014+	十四	の蓋を擲て行ふべき者なり。なんぢら我曹に由て蓋せらるべき者ハ

蓋は蓋がヌスキムト我曹を擲て官を授けたり。然るに蓋を擲て我曹の罪に對する罰は。我曹も當りし。然るに蓋を授けたり。蓋を授けたり。

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

四	聖約全書	十八
五	加拉太書	十七
六	第六章	十六
七	百十五至十八節	十五

異なる所なからんことを願ふ此キリストに由て我輩に向へば世の十字架に
 釘られ世の我に由ふも亦然り 夫イエスキリストに於ての罪惡も亦も
 受さるし益なく唯^レのみのみ益あり 凡そ此規矩に習ひて行し者
 に願くは平直と思惑せられ此のイスラエキにも亦然れ 今よりの者
 我を誤らすべし蓋われ身にイエスの印記を刻たれば也 兄弟よ願くは我
 等の主イエスキリストの思はんちらの思て留ならんことをアメン

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



保的余書 加拉太書

五百四十八

保的余書加拉太書

Vertical text on the left edge of the page, likely bleed-through from the reverse side.